

茨城県における2040年までの医療需要

1 要旨

茨城県における2040年までの医療需要の予測としては、高齢者人口の著しい増加が医療需要全体を増加させる要因となり、2035年頃にピークを迎えることが予測されている。

医療機能別にみると、高度急性期、急性期、回復期、慢性期、在宅医療等の各分野で、医療需要の変化が見込まれており、特に、在宅医療の需要増加が顕著であると予測されている。

これらの予測は、今後の医療資源の配分と計画策定において、重要な検討材料となっている。

2 茨城県の人口動態

人口動態は、医療需要に大きな影響を与える要因のひとつである。2020年から2040年にかけて、総人口は減少傾向にあるが、65歳以上の高齢者人口は増加することが予測されている。

高齢者人口の増加傾向、生産年齢人口及び年少人口の減少傾向は、医療サービスの需要増加と、医療従事者の減少という2つの課題をもたらす可能性がある。高齢者人口の増加は、高齢に伴う疾病の増加や頻繁な医療サービスの利用につながり、医療需要を増大させる主な要因となる。

年	総人口（人）	高齢者人口 65歳以上 (人)	高齢化率 (%)	生産年齢人口 15-64歳 (人)	年少人口 0-14歳 (人)
2020	2,867,009	850,733	29.7	1,681,662	334,614
2025	2,783,092	873,717	31.4	1,613,047	296,328
2030	2,687,850	878,927	32.7	1,545,514	263,409
2035	2,584,112	889,453	34.4	1,454,053	240,706
2040	2,473,182	919,151	37.2	1,321,944	232,087

出典：国立社会保障・人口問題研究所（2020年の国勢調査を基に推計）

3 茨城県の医療需要

全体的な傾向として、高齢化の進展に伴い、医療需要は増加することが予測されている。特に、回復期、慢性期の医療需要の増加が大きくなる可能性がある。一方で、高度急性期、急性期の医療需要についても、一定程度維持されると考えられている。

また、医療需要のピークは2040年よりも前の2035年頃になると見込まれている。これは、高齢者人口の増加率が低下してくることや、医療技術の進歩、在宅医療の普及などが影響していると考えられる。

医療機能別に詳細な医療需要の予測を見てみると、2013年を基準とした場合、2025年には在宅医療等の需要が41.8ポイント、急性期が19.0ポイント、回復期が23.9ポイントの上昇が見込まれている。急性期や回復期の医療需要が増加傾向にあるが、在宅医療等の増加の伸びが特に大きい。これは、高齢者が住み慣れた地域で医療や介護を受けられる体制の構築への、ニーズが高まっていることを表している。

茨城県の医療需要の将来推計

(単位：人／日)

年	入院医療					在宅医療等
	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	入院小計	
2013	1,495	4,880	5,168	4,446	15,989	22,108
2025	1,634	5,807	6,405	4,614	18,460	31,347
2030	1,652	6,090	6,811	5,036	19,589	35,421
2035	1,637	6,134	6,902	5,157	19,829	36,911
2040	1,600	6,009	6,759	5,054	19,421	36,135

出典：第8次茨城県保健医療計画 38頁 医療需要の動向

2013（平成25）年を基準にした場合の隔年の医療需要の割合

(単位：%)

年	入院医療					在宅医療等
	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	入院小計	
2013	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
2025	109.3	119.0	123.9	103.8	115.5	141.8
2030	110.5	124.8	131.8	113.3	122.5	160.2
2035	109.5	125.7	133.5	116.0	124.0	167.0
2040	107.0	123.1	130.8	113.7	121.5	163.4

出典：第8次茨城県保健医療計画 38頁 医療需要の動向

4 医療需要の将来推計に関する要因

医療需要の将来予測については、いくつかの要因が複合的に影響していると言われるが、最も重要な要因のひとつが高齢化の進展である。高齢者人口の増加は、慢性疾患の罹患率の上昇や、入院及び在宅医療の増加に直結し、医療需要を大きく増加させる。

一方で、生産年齢人口の減少は、医療現場における労働力不足の要因となり、医療提供体制の維持を困難にする可能性がある。少ない人員で効率的に医療を提供できるような体制構築が求められる。

また、医療技術の進歩や治療法の変化についても、医療需要に影響を与える可能性があると言われており、同様に、疾病構造の変化も医療需要に影響を与える要因となる。

5 医療需要の将来推計の意義

医療需要の将来推計は、今後の医療に関する計画等の策定において、重要な意味を持つ。

まず、高齢者人口の増加と在宅医療ニーズの高まりを踏まえ、在宅医療サービスの拡充や、地域包括ケアシステムの深化が不可欠となります。このためには、訪問診療や訪問看護の体制強化、医療と介護の連携強化などが必要となる。

また、医療従事者の確保と育成も課題であり、生産年齢人口の減少が見込まれる中で、医師や看護師をはじめとする医療従事者の確保を推進する必要がある。なお、働き方改革による時間外労働の削減、離職防止なども重要な点と言える。

地域ごとの医療需要の違いを踏まえ、各医療圏における医療資源の適切な配置も求められる。特に、医療資源が不足している地域においては、重点的な資源投入が必要となるとともに、医療技術の進歩や疾病構造の変化に対応できるよう、医療従事者の継続的な研修や、新たな医療サー

ビスの導入なども検討していく必要がある。

今後は、予防医療の推進により、疾病の発症や重症化を抑制することも、医療需要の適正化に寄与する。

6 まとめ

茨城県における2040年までの医療需要は、高齢者人口の増加を主な要因として、全体的に増加傾向にあり、特に在宅医療の需要が大きく増加すると推計されている。

医療需要のピークは、2035年頃と予測され、医療資源など、地域の特性を踏まえた医療提供体制の構築が重要となる。

今後の医療に関する計画において、在宅医療の充実化、医療従事者の確保及び育成、地域医療連携の強化などが重点的に求められ、将来の医療需要に対応していく必要がある。